

特定非営利活動法人 石油ピークを啓蒙し脱浪費社会をめざすもったいない学会

NPO法人もったいない学会

第1回学術・事例報告大会

～有限の地球に生きる未来戦略を探る～

会期 2014年12月13日(土曜日)
会場 東京大学本郷キャンパス内 山上会館
<http://www.sanjo.nc.u-tokyo.ac.jp/sanjo/contact/>
参加費 無料(懇親会は3,000円)

プログラム

《午前の部》 基調講演/特別講演(大会議室)
9:30～9:45 開会のあいさつ(実行委員長:鈴木秀顕)
9:45～10:45 基調講演
演題 「終焉する石油文明、日本列島で生きる民族の知恵 一脱経済成長、量より質、自然と共存、地方分散の低エネルギー・脱浪費・もったいない社会」
講師 石井吉徳(もったいない学会会長)
10:45～11:45 特別講演
演題 「研究者よ、政治から逃げないで! 一滋賀県知事8年の経験から」
講師 嘉田由紀子(びわこ成蹊スポーツ大学学長)

11:45～12:00 事務局からのお知らせ(理事:山本達也)

昼休み

《午後の部》学術・事例報告セッション

13:00～17:00 学術・事例発表会
18:00～19:30 《懇親会》(002会議室)

主催: NPO 法人もったいない学会
共催: 公益社団法人日本工学会アカデミー次世代メッセージフォーラム(講演会のみ)
後援: 幸せ経済社会研究所 一般社団法人縮小社会研究会
公益社団法人石油学会 石油技術協会 公益社団法人全国愛農会

基調講演・特別講演の講演者のご紹介

石井吉徳氏



もったいない学会会長

東京大学名誉教授
東京大学理学部卒。帝国石油、石油資源開発を経て、1971年より東京大学工学部資源開発工学科助教授、1978年より同大学教授。
1993年、東京大学を退官し名誉教授。
1994年～1998年、国立環境研究所副所長、所長。
1998年～2006年、富山国際学園特命参事・大学教授。
2006年、もったいない学会創設、会長。

主な著書

『知らなきヤバイ 石油ピークで食糧危機が訪れる』(日刊工業新聞社)、『石油ピークが来た: 崩壊を回避する「日本のプラン B」』(日刊工業新聞社)、『石油争奪戦: 世界を震撼させる「ピークオイル」の真実』(日刊工業新聞社) など多数。

嘉田由紀子氏



びわこ成蹊スポーツ大学学長

前滋賀県知事
京都大学農学部を卒業、米国ウィスコンシン大学大学院留学を経て
1981年、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了
1981年、滋賀県立琵琶湖研究所研究員
1996年、滋賀県琵琶湖博物館総括学芸員
2000年、京都精華大学人文学部環境社会学科教授
2006年7月 滋賀県知事、2期選出
2014年10月 びわこ成蹊スポーツ大学学長

主な著書

『水と人の環境史 琵琶湖報告書』鳥越皓之編、御茶の水書房、『生活世界の環境学 琵琶湖からのメッセージ』農山漁村文化協会、『知事は何ができるのか?』風媒社、『命にこだわる政治をしよう』風媒社

特別報告の講演者のご紹介

呉地正行氏

日本雁を保護する会・会長、ラムネットJ共同代表 1949年神奈川県生まれ。東北大学理学部卒。ガン類とその生息地の保護保全に取り組み、市民参画型の自然再生運動や地域興しを实践し、循環型農業や生物多様性水田として注目される「ふゆみずだんぼ」を広く紹介。日本鳥学会鳥学研究賞(1981)、日本鳥類保護連盟総裁賞(1994)、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰(2001)、生物多様性日本アワードグランプリ(2011)受賞。主な著書に「雁よ渡れ」(どうぶつ社)、「いのちにぎわうふゆみずだんぼ」(童心社)など。

「第1回学術・事例報告大会」申込要領

学会 HP (<http://www.mottainaisociety.org>) から参加申込書をダウンロードの上、mosubmit@gmail.com までメール添付にてお申し込みください。

第一会場(201 会議室・202 会議室)

セッション A1 石油ピークに関する分析、多様なエネルギー資源の開発や問題点 座長：松島 潤

13:00~13:55	A11	米国シェールガス開発のエネルギー収支分析とその考察 ○松島 潤(東京大学)
	A12	地球温暖化対策不要が貿易立国日本の生き残りの道 久保田 宏(東京工大名誉教授)、○平田賢太郎(技術士)、松田 智(静岡大学)
	A13	石油代替エネルギーのエントロピー考 ○田村八洲夫(川崎地質株式会社)

セッション A2 石油ピーク等エネルギー源の限界がもたらす社会・経済・政治の構造変化 座長：山本達也

14:00~14:55	A21	ピークオイルの視点から見た「アラブの春」: 予見されたタハリール II ○山本達也(清泉女子大学)
	A22	世界と日本の人口問題；食料とエネルギー自給の問題に関連して 久保田 宏(東京工大名誉教授)、○松田 智(静岡大学)、平田賢太郎(技術士)
	A23	Dmitry Orlov 氏の崩壊 5 段階説 ○大谷正幸(金沢美術工芸大学)

セッション A3 低エネルギー政策及びその社会の実現方法 座長：田村八洲夫

15:00~15:55	A31	食糧自給が可能な自然との共生社会実現の方法 ○田村八洲夫(川崎地質株式会社)
	A32	石油ピーク以降のエネルギー政策と低エネルギー社会の実現 ○旭岡勸峻(社会インフラ研究センター)
	A33	人材がもったいない～技術イノベーションより組織イノベーション ○山田 幸(国際技術コンサルタント)

セッション A4 地域自立のエネルギー開発の将来 座長：大久保泰邦

16:00~16:30	A41	【特別報告】大震災により崩壊した自然・地域社会再生の現状と開発の問題点 ○呉地正行(日本雁を保護する会)
16:30~16:55	A42	アジアにおける資源とガバナンス ○大久保泰邦(産業技術総合研究所)
	A43	原発被災地域社会の再生から見たエネルギー開発と健康の将来像 ○安藤 満(日本農村医学研究所)

第二会場(001 会議室)

セッション A5 新しい社会インフラ及び社会構造の在り方 座長：五十嵐敏郎

13:00~13:55	A51	液体燃料危機後の都市交通システムに関する提案 ○五十嵐敏郎(金沢大学)
	A52	低エネルギー社会の経済効果に関する考察～過疎地域施策から ○鈴木秀顕(ノースアジア大学)
	A53	アメリカ・ポートランド市のグリーンインフラを活用した雨水流出管理戦略の事例研究 ○加藤禎久(国際連合大学)

セッション B1 地域におけるエネルギー開発の事例 座長：山口勝洋

14:00~14:55	B11	地域エネルギーの共同プロジェクト事例紹介と現状 ○山口勝洋(サステナジー)
	B12	立体農業とトランジション・タウン活動の実践 ○大村 淳(トランジション・タウン浜松)
	B13	ピーマン生産の施設園芸での重油削減の取り組みの現状 ○田川勇治(田川農園)

セッション B2 新たな街づくりの住民参加型の成功条件の事例 座長：森田和宏

15:00~15:55	B21	都市型エココミュニティー(アズワンコミュニティの試みから) ○小野雅司(サイエンズ研)、片山弘子(循環共生社会システム)、北川道雄・市川憲一(アズワンコミュニティ鈴鹿)
	B22	地元で電気を考える ○日光市立足尾中学生一同(栃木県日光市立足尾中学校)
	B23	持続可能社会の扉をひらく市民参加 森 健司・○辻村琴美・上岡 瞳(新江州循環型社会システム研)

セッション B3 様々な形の地域づくり事例 座長：旭岡 勸峻

16:00~16:55	B31	ヒューマンネットワークマガジン「かがり火」を通じての地域づくり ○西村一孝(「かがり火」原宿表参道支局長)
	B32	持続可能な暮らしの実践事例報告 ○内園香(日本ホステリック協会)、空閑厚樹(立教大学)、林 悦子(聖隷クリストファー大学)、福島由美子(循環型社会研)
	B33	英国フィンドホーンのエコビレッジコミュニティの多面性と成功の秘訣 ○福島由美子